

先輩教師からのメッセージ

—高等学校・特別支援学校編—

まえがき

「団塊の世代」の大量退職に伴い、様々な分野において、長年にわたり蓄積してきた知識や技能をいかに後進に継承していくかが社会的な課題となっています。教育の分野におきましても、教育職あるいは教育行政職としての専門的な知識・技能や実践的指導力を、後輩教職員に伝えていくことが求められているところです。

学校教育を取り巻く環境は、高度経済成長、国際化、情報化、少子化といった時代の流れの中で、大きく変化してきました。これらに伴って生じた課題に対応しながら、この世代の教職員の方々は、まさに学校の中核として、児童・生徒の指導に尽力されてきました。

当センターでは、この世代に蓄積された経験知を後世に伝え、本県の学校教育の充実に役立てるため、平成十九年度、「団塊の世代」の小・中学校教職員に、後輩にぜひ伝えたいことについて執筆を依頼し、長年の教職体験を踏まえた経験知を小冊子にまとめました。今年度は、高等学校・特別支援学校の「団塊の世代」の先輩教師・学校職員に執筆を依頼し、本冊子にまとめました。お寄せいただいた玉稿は、それぞれ児童・生徒指導や学習指導、自己啓発等の視点から書かれており、後輩教職員が日頃の教育活動を展開するに当たり、示唆を得られるものと存じております。

学校をはじめ関係機関においては、本冊子の作成の意図をご理解いただき、教育活動の充実の一助として、ご活用いただければ幸いです。

平成二十年十一月

栃木県総合教育センター所長 鈴木健一

まえがき

1

生徒と共に

言葉の力	田村和江	8
実践活動の中から得た教訓	穂山幸一	10
教員になった日	五月女政巳	12
自然の中で体験活動を	川崎勉	14
子どもたちの懸命な学びの姿から	田村重夫	16
心のふれあいで学んだこと	大谷美恵子	18
舎生と共に歩んできた日々	竹沢イネ子	20
「班ノート」から	村井和子	22
生徒一人ひとりの頑張りを支える先生に	猿山美代子	24

授業にかける

授業について考える	小川通	28
家庭科の教師として心がけていたこと・やり残したこと、二題	上野淑子	30
私の原点	大宮孝雄	32
数学教師として教壇に立つて	生野修郎	34
授業に思うこと	藤田一夫	36

時を超えて

学校事務 昨今	菅原茂	40
「許容範囲」と私の「戯言」	星周二	42
特別支援教育の目指すもの	稲葉隆	44
時代が変わっても受け継がれるもの	金子友昭	46
生徒との日々の対応を大切に	大森知子	48
事務職員として	河又盛久	50
養護教諭として四十年間過ぎてみて	玉田聖子	52
寄宿舎教育の変遷に思う	佐藤文雄	54
教育成果の検証	五味田謙一	56

教育への姿勢

生徒のために何ができるかを問え	堀信子	60
謙虚に学ぶ姿勢が大切	藍田收	62
教育行政と学校の現場	植田俊夫	64
見据えているもの	岡田徹	66
感謝	大栗克元	68
人は認めてくれる人を認める	根本進一	70
雑用が多くて	伊藤孝信	72
一以て之を貫く	田島一利	74

ある保護者との出会い	浜野英一	76
病気でなれた素直な生き方	三上隆敏	78
しなやかに生きる	奥中栄二	80
教員生活における「私の心得」	石川政一	82
足を使う	関口伸一	84
定時制二十三年間の勤務から得たこと・考えたこと	篠崎一夫	86
自分らしく	伊藤節子	88
私がめざした(ている)三人の師	和田貞夫	90
関係が教育する — 教育を支えるもの —	本間友章	92
出会い	河又利博	94

自己を見つめる

人は魅かれて生きる	村松慎介	98
一般の人向けの日本古典文学講座	熊倉茂	100
貯金をしよう	手塚真砂子	102
「教師力Ⅱ生徒愛×情熱×創意工夫」	野澤正憲	104
男子たるもの厨房に入るべし	都野祐俊	106
読んだ本について	増野春	108
部活動の楽しみ	井上充男	110
趣味を持つとう	小林浩行	112

遊・学	渡邊博史	114
部分の充実を全体へ	立川雅康	116

専門を貫く

音楽が与えてくれた出会い	沼尾守夫	120
振り返れば反省することばかり	飯島二郎	122
教員生活を顧みて	下妻久男	124
家庭の教育力を高めるために	佐々木さと子	126
「生きる力」をはぐくむプロジェクト活動	小森芳次	128
当たり前のことではあるが	立野美奈子	130
私を取り組んできたことを振り返って	角田重雄	132
高校時代の思いを貫いて	茂木幸子	134
体験させたい「ドキドキ・ワクワク」	橋本暁	136
退職に思うこと	渡邊道子	138
泣き虫 体育教師	大島喜代子	140
命が教えてくれる教育	柴田富男	142

編集後記